

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270400167		
法人名	特定非営利活動法人 三山ホーム		
事業所名	グループホーム三山ホーム伊東		
所在地	静岡県伊東市八幡野1261-14		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成31年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2270400167-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年12月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

伊豆高原の桜並木がある自然豊かな所です。保養所を改装した施設なので、バリアフリーではありませんが、階段等は、生活リハビリとして活用し、必ず職員が見守っています。「笑顔とその人らしさ」を大切にホームの理念としています。大きなイベントとして、納涼祭とクリスマス会を家族に協力して頂いて開催しています。月に5～6回は、行事や季節のイベントをしています。秋には、サンマ祭りや運動会、文化祭等を行っています。文化祭は、入居者様や職員の作品を展示し、近隣の方々にも見に来て頂いています。防災訓練は年6回(内3回は夜間想定)しています。玄関先にテーブルを置き小さなサロンし、地域の人達にホームの出来ることを還元していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

折しもクリスマスシーズン、玄関ホールが聖なる日一色に彩られる中、調査訪問日は『天皇誕生日パーティー』で賑わっていました。3時のおやつを兼ねた手作りクレープを味わいながらクリスマスソングに乗って軽やかに躍る職員の雄姿を觀賞し(職員パフォーマンスは、近くの歌声喫茶でもお呼びがかかるほど好評とのこと)、間もなくリズムに誘われて踊り出した女性利用者のステップもまた見事で、いつの間にか皆がよく知る炭坑節に変わると別の利用者が踊り出し、最期は全員が炭坑節を熱唱する場面を迎えたときには無表情だった人も顔をあげて歌い出していて、ホスピタリティ溢れる事業所であることが一目瞭然の圧巻の場面でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議にて確認している。職員同士にて理念に添っているか振り返り時間を持っている。理念の項目ごとに共有している。1年間の目標を立てている。	理念掲示、年間目標、職員会議での振り返りと、マネジメントサイクルに乗せた理念実現への仕組みがあります。木立に囲まれたロジックのある空間で食後のコーヒーを堪能していると誰ともなく唱歌を口ずさみ、いつしか大合唱になっていく様は心の解放が伴う安らぎが感じられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントには、すすんで参加している。納涼祭やクリスマス会に参加していただいている。退去したご家族様が庭の手入れに来てくれる。文化祭を開催している。サロンの場所がある。	エントランスでの作品展は地区のコミュニティーセンター展示へ昇格し、対馬地区ふるさと協議会では事例発表、伊豆高原きらめきの会ではボランティア訪問を重ねてくださり、納涼祭やさんま祭りには近隣住民も集まる等々、開設15年の重みを感じる地域交流が実っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人が、見学や問い合わせの時に相談や悩みを聞いている。ケアで参考になることは、伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況、行事、防災、ケア等について報告し、意見を聞いている。地域のイベントや情報も教えて頂いている。納涼祭、クリスマス会等参加して頂いている。災害時の協力もお願いしている。また協力出来ることは協力する。	多様なメンバーが足を運んでくださり、隔月開催が叶っています。運営推進会議は取り組みを知ってもらい、また事業所が持つ専門性(認知症ケア)を地域に還元する場と捉え、混乱した利用者が跳び出してあわや交通事故…、とヒヤリとした例もありのままに伝えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空き状況や、事故が発生した時は、すぐに連絡している。特に生活保護の方には、ケアプランを確認して頂いている。社協の自立支援の制度を活用の方の支援もしている。	空室がでた際や更新手続き、骨折等の事故報告及び完治報告について行政窓口足を運び、連携に努めています。また生活保護の利用者5名を受入れていることから、自ら希望を言えない人については、行政職員に介護計画書をみてもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には、カギをかけずに対応している。職員会議にて、身体拘束について勉強会をしている。言葉の拘束については、特に気を付けている。身体拘束宣言をしている。身体拘束委員会を三月に一度開催している。	本年法改正の、身体拘束適正化のための指針を整備のうえ、身体拘束委員会を設置しています。3ヶ月ごとに開催を定め、本年度中に4回実施の予定です。また「言葉遣いについて」スピーチロックを中心に職員アンケートもおこなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて虐待について勉強し、おこらないよう職員同士にて、注意している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援を活用している入居者がいるので、関係者と連絡しあい、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明し、納得していただいた場合、契約書にサインをして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、三ヶ月に一度アンケートにてお聞きしている。運営推進会議でも意見をお聞きしている。	面会は年に一度という家族もいるため、写真・身体状況・訪問診療の結果・行事などを網羅した、色彩豊かな通信をユニット毎に発行しています。また3ヶ月毎に記述式のアンケートも実施、忌憚ない意見をもらえていて、風通しのよい運営につなげています。	退去して7年を経ても毎年柚子を届けてくださる家族や庭の手入れをしてくれる家族、空き缶工作を作ってきてくれる家族もいるとのことですので、OBも含み家族会運営があると、なお良いと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に参加し、職員の意見を聞いている。また個別に意見や悩みを聞いている。	ユニット毎に職員は固定で9名の利用者をしっかり把握できるとともに毎月職員会議を以て情報共有も確かです。また1ヶ月ごとに行事担当者を決め、自主性を養っていて、3年以上の勤務者が7割以上なことから、遅番の時間変更をはじめ運営に係る積極的な意見が集まっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働ける時間帯を考慮している。また職員の家族の変化により、働く形態も考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら介護福祉士を目指している。トライアル雇用も採用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の小規模部会に参加し、意見交換会や研修している。他のグループホームとイベントで交流している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ホームに来て頂きホームの様子を見て頂いている。なぜ入居するのか、家族から説明して頂き、そのようなケアをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの前に何回か面会し、話を聞いている。家に訪問している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聞きまだホームでなくてもいい場合、他のサービス(デーサービス・小規模多機能等)の事を説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは本人にやっていただいている。やりがいがあるよう支援している。入居者同士助け合いながら、庭掃除や、食器拭き等している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行きつけの美容院や、病院に家族と行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と外食やなじみのお店やお墓参り等の支援をしている。知り合いとコンサートに出かけている。馴染みの美容院、病院に行っている。	面会時間は決めず「いつでも」との態勢で、家族に限らず、信仰仲間や異性の友人も訪れています。起床後の珈琲、草取りや喫煙・晩酌が日課、日記を綴る、馴染みの美容院通い等在宅の習慣を続ける一方で、自宅での外泊から戻ってきて「ほっとした」と零したとの例もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	友人関係や、ささえあい仲間ができています。動けない人を動ける人が助けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もお見舞いや、死亡した場合参列させて頂いている。退去後、家族からゆず等届けて頂いている。庭の手入れに来て頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に、今までの生活歴をお聞きし添えるようにしている。個別に買い物や、外出。散歩等している。家族の意向は、アンケートや面会時にお聞きしている。生活歴を作成し職員で共有しケアに役立てている。	入居にあたり本人・家族にはアンケートとともに、生活史等の記載に協力を得ています。これらの情報は数枚に及ぶアセスメントシートに落とし込まれ、さらにセンター方式『私の姿と気持ちシート(C-1-2)』を担当職員が作成して、エピソード、呼称、好き嫌い等が詳細に共有できています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報提供書や家族からの聞き取り、センター方式に記入し職員同士で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事、今出来ない事、好きな事、嫌いな事を記入し、皆で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にはお聞きし、家族には、アンケートに記入して頂いている。面会時には、今の状況を説明し、理解して頂きプランに反映している。入居者の状態に変化があった場合その都度変更している。今必要としていることを支援している。	本件に係る有資格者を適正に配置し、カンファレンスを毎月ユニット単位で実施、欠席者は紙面で意見・情報を提出しています。職員への聞き取りからモニタリング表を作成するほか、変更にあたる内容は随時職員から挙がっていて、介護計画書の浸透が図られています。	丁寧なアセスメント表がありますので、更新に更に活かされる仕組みがあることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシート、モニタリングを記入し、職員会議で意見をだしあっている。業務日誌を見てから業務に入るようにしている。サービス担当者会議にて共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の今必要な事を把握し、臨機応変にその都度対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントにさんかしている。好きな美容院に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みお病院に受診している方には、バイタル表や、最近の状態を記入し持参して頂いている。職員が同行し説明する時もある。	月2回訪問診療をおこなう協力医へと9名が移行、24時間365日の支援体制があり、安心です。従来のかかりつけ医を8名が継続、家族が通院に付き添うため、バイタル、メモをまとめて手渡し、また直接医師に伝えることがあれば職員も同行しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報を伝えている。主治医との連絡をして頂く。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、相談員、家族とよく相談し、早期に退院できるよう支援している。入院した場合1ヶ月猶予をおいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や、介護保険の更新時に話し合いしている。特養や老健の相談委員とも連絡し支援している。救急(延命)時についてもアンケートしそれを基にしている。常に家族と連絡をとりあっている。終末期については、その都度家族、主治医と相談している。	契約時には「看取りに関する指針」にて説明、最期のステージをどこで過ごしたいかの確認するとともに、個人ファイルには緊急時の対応、延命についての記載をおこない、プラン更新時に意向の再確認をしています。本年度実績は2名、開設以来20名以上をお見送りしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に行き皆で勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回(内3回は夜間想定)運営推進会議で、災害時の協力をお願いしている。炊き出しの訓練もしている。	地震及び火災設定で連絡網や通報、消火器の扱い、炊き出し(おにぎり、カレー)等が主なメニューです。年6回の訓練の内3回は「夜勤者1名で消防車が到着する10分までできることは何か」と、検討しています。積雪での隔離も想定されるため備蓄は1週間余用意しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、言葉かけには、特に気をつけている。職員会議でも確認している。秘密の保持も徹底している。申し送り時には、インシヤルや部屋番号で対応している。排泄時の声掛けや支援の場での声掛けには、特にきを付けている。	「氏名を部屋番号で伝える」「記録を開いたままにしない」「あからさまなトイレ誘導はしない(何かのついでで自然な形)」「どのように呼ばれたかを本人、家族に確認する」「同性介助の希望を聞いて添うようにしている」と、尊厳における遵守事項が明確です。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	イベントの参加等本人に決めていただいている。バイキング好きなものを選んで頂く		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆さん自分のペースで生活しているが、お天気や、季節のイベントにより、希望をお聞きし支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	似合ったヘアスタイル、洋服等支援している。買い物に同行している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭先やピクニックで食事を楽しんでいる。お誕生日や季節の行事時には、特別メニューにしている。食材の準備や片付け等して頂いている。	「手作りで旬」を旨とし、フィリピンバイキングやさんま祭りとはほぼ毎週『食の楽しみ』イベントが繰り広げられ、「天気が良ければ外」も事業所の定石で、楽しいと刻み食の人でも食欲が増えています。また裏山で筍堀から調理という日もあり、自然を満喫した食事提供が得意です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけ、活用し、自立を促している。昼間は布パンツで夜間帯紙パンツの方もいる。他の入居者に気づかれぬようトイレ誘導を支援している。	24時間の排泄表でパターンを把握して声をかけ、昼は布パンツ、夜間はリハパンと、本人の不安にも配慮しつつ徐々に進めていくことで、リハパンから布パンツへと向上した例もあります。「夏に向かい薄着となる季節が本人の意欲も増しチャレンジしやすい」との経験値も活かしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時ヨーグルトを提供している。野菜中心の食事です、ラジオ体操は毎日。散歩はよく行く		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時には、ただ入浴するのではなく、会話を楽しむようしている。拒否した場合時間帯を変えたり、職員を替えたりし支援している。清拭や足浴もしている。	入浴は週2～3回を目安として、希望があれば毎日という対応も可能です。市販の浴剤を入れたり、外気浴しながら足浴をすることもあり、湯船に浸かり心身ともに緩んで歌をうたいだす人もいます。また退去した利用者家族から毎年柚子が届いていて、贅沢に湯船に浮かべています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間は人により違っている。午前中や昼寝する方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が皆、把握し様子をその都度主治医の報告している。必要な薬だけになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の好きな人、踊りの好きな人、掃除が出来る人、食器拭きが出来人、役割が決まっている。楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と協力し、外食や美容院に出かけている。イベントで、初詣、足湯、ガスト、桜見物、紅葉狩等出かけている。ボランティアさんと散歩を楽しむかたもいる。	建物周囲の散歩のほか大階段もリハビリとして活用しており、普段車いすの生活をする人でも参加しています。年間行事として初詣、花見、紅葉狩を実施するとともに月2回はドライブ企画があり、八幡野港、大室山さくらの里、熱川足湯、買い物ツアーが慣行されています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	人により支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	でんわ、ハガキで贈り物のお礼や近況を報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々で季節換をだしている。昼間と夜間帯で明るさを調整している。利用者が散歩に行き草花を摘んできて飾っている。ロビーには、いつも植木を置いている。利用者が水くれている。	山茶花、楓、モクレンの木立に囲まれ、リスが訪れることもあるという穏やかな場所ですが、天井の高い古い建物とあって、全館一斉空調では足りずに置いたストーブが静寂なぬくもりを醸し出しています。毎日欠かさず掃除をおこない、これまで感染は発生したことがなく、清潔です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやイスを置いてある。窓際が好きな人は、いつもその場所にいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きなタンスや、お位牌、三面鏡等持参している。犬と生活していた方は、写真を飾っている。	保養所を改装した居室は和・洋室と各室趣が異なり、特に2階の縁側スペースは広く、籐椅子やミニテーブルが置かれ、旅の宿のようにゆっくりと外の景色を楽しめることが覗えます。絨毯を敷いたり、冷蔵庫や仏壇等が持ち込まれ、どの部屋もその人らしい表情をもっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を活用し、出来ることはして頂いている。庭掃除する人、草取り人、食器拭きの人等役割が決まっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270400167	
法人名	特定非営利活動法人 三山ホーム	
事業所名	グループホーム三山ホーム伊東	
所在地	静岡県伊東市八幡野1261-14	
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2270400167-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成30年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

伊豆高原の桜並木がある自然豊かな所です。保養所を改装した施設なので、バリアフリーではありませんが、階段等は、生活リハビリとして活用し、必ず職員が見守っています。「笑顔とその人らしさ」を大切にホームの理念としています。大きなイベントとして、納涼祭とクリスマス会を家族に協力して頂いて開催しています。月に5～6回は、行事や季節のイベントをしています。秋には、サンマ祭りや運動会、文化祭等を行っています。文化祭は、入居者様や職員の作品を展示し、近隣の方々にも見に来て頂いています。防災訓練は年6回(内3回は夜間想定)しています。玄関先にテーブルを置き小さなサロンし、地域の人達にホームの出来ることを還元していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

折しもクリスマスシーズン、玄関ホールが聖なる日一色に彩られる中、調査訪問日は『天皇誕生日パーティー』で賑わっていました。3時のおやつを兼ねた手作りクレープを味わいながらクリスマスソングに乗って軽やかに躍る職員の雄姿を觀賞し(職員パフォーマンスは、近くの歌声喫茶でもお呼びがかかるほど好評とのこと)、間もなくリズムに誘われて踊り出した女性利用者のステップもまた見事で、いつの間にか皆がよく知る炭坑節に変わると別の利用者が踊り出し、最期は全員が炭坑節を熱唱する場面を迎えたときには無表情だった人も顔をあげて歌い出していて、ホスピタリティ溢れる事業所であることが一目瞭然の圧巻の場面でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議にて確認している。職員同士にて理念に添っているか振り返り時間を持っている。理念の項目ごとに共有している。1年間の目標を立てている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントには、すすんで参加している。納涼祭やクリスマス会に参加していただいている。退去したご家族様が庭の手入れに来てくれている。文化祭を開催している。サロンの場所がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人が、見学や問い合わせの時に相談や悩みを聞いている。ケアで参考になることは、伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況、行事、防災、ケア等について報告し、意見を聞いている。地域のイベントや情報も教えて頂いている。納涼祭、クリスマス会等参加して頂いている。災害時の協力もお願いしている。また協力出来ることは協力する。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空き状況や、事故が発生した時は、すぐに連絡している。特に生活保護の方には、ケアプランを確認して頂いている。社協の自立支援の制度を活用の方の支援もしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には、カギをかけずに対応している。職員会議にて、身体拘束について勉強会をしている。言葉の拘束については、特に気を付けている。身体拘束宣言をしている。身体拘束委員会を三月に一度開催している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて虐待について勉強し、おこらないう職員同士にて、注意している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援を活用している入居者がいるので、関係者と連絡しあい、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明し、納得していただいた場合、契約書にサインをして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、三ヶ月に一度アンケートにてお聞きしている。運営推進会議でも意見をお聞きしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に参加し、職員の意見を聞いている。また個別に意見や悩みを聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働ける時間帯を考慮している。また職員の家族の変化により、働く形態も考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら介護福祉士を目指している。トライアル雇用も採用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の小規模部会に参加し、意見交換会や研修している。他のグループホームとイベントで交流している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ホームに来て頂きホームの様子を見て頂いている。なぜ入居するのか、家族から説明して頂き、そのようなケアをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの前に何回か面会し、話を聞いている。家に訪問している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聞きまだホームでなくてもいい場合、他のサービス(デーサービス・小規模多機能等)の事を説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは本人にやっていただいている。やりがいが持てるよう支援している。入居者同士助け合いながら、庭掃除や、食器拭き等している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行きつけの美容院や、病院に家族と行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と外食やなじみの店やお墓参り等の支援をしている。知り合いとコンサートに出かけている。馴染みの美容院、病院に行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	友人関係や、ささえあい仲間ができています。動けない人を動ける人が助けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もお見舞いや、死亡した場合参列させて頂いている。退去後、家族からゆず等届けて頂いている。庭の手入れに来て頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に、今までの生活歴をお聞きし添えるようにしている。個別に買い物や、外出。散歩等している。家族の意向は、アンケートや面会時にお聞きしている。生活歴を作成し職員で共有しケアに役立てている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報提供書や家族からの聞き取り、センター方式に記入し職員同士で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事、今出来ない事、好きな事、嫌いな事を記入し、皆で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にはお聞きし、家族には、アンケートに記入して頂いている。面会時には、今の状況を説明し、理解して頂きプランに反映している。入居者の状態に変化があった場合その都度変更している。今必要としていることを支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシート、モニタリングを記入し、職員会議で意見をだしあっている。業務日誌を見てから業務に入るようにしている。サービス担当者会議にて共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の今必要な事を把握し、臨機応変にその都度対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントにさんかしている。好きな美容院に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みお病院に受診している方には、バイタル表や、最近の状態を記入し持参して頂いている。職員が同行し説明する時もある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報を伝えている。主治医との連絡をして頂く。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、相談員、家族とよく相談し、早期に退院できるよう支援している。入院した場合1ヶ月猶予をおいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や、介護保険の更新時に話し合いしている。特養や老健の相談委員とも連絡しあい支援している。救急(延命)時についてもアンケートしそれを基にしている。常に家族と連絡をとりあっている。終末期については、その都度家族、主治医と相談している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に行き皆で勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回(内3回は夜間想定)運営推進会議で、災害時の協力をお願いしている。炊き出しの訓練もしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、言葉かけには、特に気をつけている。職員会議でも確認している。秘密の保持も徹底している。申し送り時には、インシヤルや部屋番号で対応している。排泄時の声掛けや支援の場での声掛けには、特にきを付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	イベントの参加等本人に決めていただいている。バイキング好きなものを選んで頂く		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆さん自分のペースで生活しているが、お天気や、季節のイベントにより、希望をお聞きし支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	似合ったヘアスタイル、洋服等支援している。買い物に同行している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	庭先やピクニックで食事を楽しんでいる。お誕生日や季節の行事時には、特別メニューにしている。食材の準備や片付け等して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけ、活用し、自立を保立てるよう支援している。昼間は布パンツで夜間帯紙パンツの方もいる。他の入居者に気づかれぬようトイレ誘導を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時ヨーグルトを提供している。野菜中心の食事です、ラジオ体操は毎日。散歩はよく行く		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時には、ただ入浴するのではなく、会話を楽しむようしている。拒否した場合時間帯を変えたり、職員を替えたりし支援している。清拭や足浴もしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間は人により違っている。午前中や昼寝する方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が皆、把握し様子をその都度主治医の報告している。必要な薬だけにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の好きな人、踊りの好きな人、掃除が出来る人、食器拭きが出来人、役割が決まっている。楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と協力し、外食や美容院に出かけている。イベントで、初詣、足湯、ガスト、桜見物、紅葉狩等出かけている。ボランティアさんと散歩を楽しむかたもいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	人により支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	でんわ、ハガキで贈り物のお礼や近況を報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々で季節換をだしている。昼間と夜間帯で明るさを調整している。利用者が散歩に行き草花を摘んできて飾っている。ロビーには、いつも植木を置いている。利用者が水くれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやイスを置いてある。窓際が好きな人は、いつもその場所にいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きなタンスや、お位牌、三面鏡等持参している。犬と生活していた方は、写真を飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を活用し、出来ることはして頂いている。庭掃除する人、草取り人、食器拭きの人等役割が決まっている。		